

# 胡錦濤政権期の「外交ドクトリン」

2012年2月16日(木) 14時~17時

南山大学名古屋キャンパス

J棟 1階特別合同研究室(Pルーム)

報告1 中国における国益論争と革新的利益

前田宏子 (PHP 総合研究所主任研究員)

報告2 中国の国際関係学会における「韜光養晦」論争と

外交方針策定の変容

李彦銘 (慶應義塾大学法学研究科後期博士課程)

報告3 中国の国際的身分 — 「責任ある大国」から検証する

徐顕芬 (早稲田大学現代中国研究所客員専任講師、  
人間文化研究機構地域研究推進センター研究員)

報告4 中国におけるグローバル・ガバナンス論

兪敏浩 (名古屋商科大学コミュニケーション学部専任講師)

司会 星野昌裕 (南山大学総合政策学部准教授)

討論 須藤季夫 (南山大学総合政策学部教授)

鈴木隆 (愛知県立大学外国語学部中国学科専任講師)

中国の台頭が語られるようになって久しい。さらに2000年代から世界的なパワー・シフトの時代を迎え、新大国、中国の動向は世界の注目の的となっている。しかし中国外交の内実については、政策の多元化、利害関係者の多様化が指摘されており、その実態は益々つかみ難くなっている。本シンポジウムでは、胡錦濤政権の外交方針に密接に関連する4つのキーワードを事例に、中国政府が提起する「外交論」の形成過程と実質を明らかにし、中国外交の指向性に具体的に迫る。

携帯電話、スマートフォンからこの講演会の情報が読み取れます。↓

